

平成26年度授業づくり拠点校（活用力研究事業）実践事例

指導者 内田 香矢子

第2学年 国語科学習指導案

1 単元

読書と情報 技を伝える(メディアと上手に付き合うために) 池上 彰

2 単元構成の意図

☆ 学習指導要領

<p>[A 話すこと・聞くこと] (1) オ 言語活動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。 ・調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。
<p>[B 書くこと] (1) アイオ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。 ・自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。 ・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。
<p>[C 読むこと] (1) ウエオ 言語活動例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 ・文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。 ・多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。 ・新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。

(1) 生徒観

生徒は、説明的な文章として、一年生では「ちょっと立ち止まって」「ダイコンは大きな根?」「流水と私たちの暮らし」などを学習してきた。授業では、説明文の構成や段落相互の関係などに注意して読むことや根拠を明らかにして自分の意見を発表したり、書いたりする活動に取り組んでいる。その結果、少しずつではあるが、いろいろな意見を聞き、自分の表現に取り入れることもできるようになってきている。しかし、条件に従ってまとめたり、相手にわかりやすく説明したりする力には個人差があるので、生徒同士が「学び合う」活動を取り入れていきたい。

(2) 教材観

本教材「メディアと上手に付き合うために」は読書と情報に関する単元に配置されている説明文である。中学生にとっては身近なテレビ・新聞・インターネットというメディアについて取り上げられており、文章もわかりやすい。序論・本論・結論という文章構成もはっきりしている教材である。また、生徒たちにとって身近な記事内容を取り上げることにより、新聞記者がどんな視点をもって取材をしているのかを考えさせるのに適した教材である。

(3) 指導観

さまざまな情報があふれている昨今ではあるが、中学生が新聞記事に触れる機会は急激に減少している。複数の情報を比較して読むこともあまりない。そのような生徒にとって身近な記事を取り上げ、比較させることによって、新聞が編集されている意図を理解させることは、これからの自分自身の生活の中で、メディアと上手に付き合いしていくために大切なことと考える。また、本教材で学習したことを自分の言葉でまとめ、表現する力を身に付けさせたい。

3 単元目標

- メディアの特徴を理解し、メディアとの付き合い方について考える。
- 集めた情報を比べ、その違いなどを基に、自分の考えをまとめる。

4 指導計画 (全6時間)

- ・第1次 本文を序論・本論・結論に分け、メディアの特徴について理解する。
…2時間
- ・第2次 三社の新聞記事を比較し、新聞が「編集」されていることを理解する。
…2時間(本時2/2)
- ・第3次 メディアとの付き合い方について自分の考えを条件に従って書き、意見交換する。
…2時間

5 本時案

- ①主眼 三社の新聞記事を読み比べ、異なる部分(独自の取材内容)を探す活動を通して、新聞の編集意図がわかる。
- ②準備 ワークシート 新聞記事 御田植祭の写真 意見をまとめるプリント

③学習の展開

学習活動・学習内容	指導上の留意点
①前時の学習内容と、本時のめあてを確かめる。	①メディアは編集されていることを確認し、本時は三社の新聞から異なる部分について取り上げていくことを伝える。 ・今日のめあてを提示する。
それぞれの新聞は、どんな意図をもって「編集」されているかを説明しよう。	
[発問1] 三社の記事内容を比較し、2段落目と3段落目で異なる点はどこか。	
②プリントに取り上げた記事を基に、三社の記事内容を比較し、異なる点についてまとめる。	②前時に各自で異なる部分について記入したプリントを基に、グループで意見をまとめさせる。 ・グループの意見をまとめるプリントを各班1枚準備し、一社につき2つ以上は記入させる。 ・各班の発表を黒板にまとめ、比較させる。
[発問2] 三社は、それぞれどこに注目して取材したのか。	
③②での比較を基に、それぞれの新聞社がどこに注目して取材したのか、話し合い、発表する。	③②で確認したことが、教科書の⑩段落に説明されていることを挙げ、新聞記者がどこに注目して取材したのかを考えさせたい。 ・A社は中学生の活動(姿)、B社は行事全般、C社は御田植祭の歴史に注目しているという意見が出ると予想されるが、B社については意見がまとまりにくいかもしれない。
④本時の学習の振り返りをする。	④ワークシートに本時の授業評価と感想を記入させる。 ・新聞の記事内容は、編集によって違いが出てくることや授業の中で出てきた意見についてどう思ったか、自分のことばで表現できるようにさせる。

「メディアと上手に付き合うために」

指導者 内田 香矢子

1 主眼
 三社の新聞記事を読み比べ、異なる部分(独自の取材内容)を探し出す活動を通し、新聞の編集意図がわかる。

2 指導上の留意点

① メディアは編集されている新聞取次から異なるところを伝える。

② 前時にグループでまとめた意見が発表できるようにさせる。

③ 教科書の⑩段落に説明がなされているところを注目し、新聞取材の意図を考察させる。

④ 新聞記事の内容が異なる点を見出し、授業の中で出た疑問や授業の意図を表現させる。

評価
 ・新聞記事の意図を理解すること
 ・新聞記者の取材意図を深めること
 ・グループで話し合えること
 ・自分の考えを表現すること

問四

取材する記者がどこに注目して大きく変わってきます。内容は

C A社 勝山中の生徒の様子
 B社 御田植祭の様子
 C社 歴史

社 A
 ・写真愛好家
 ・多くの市民ら
 ・田植祭の前様子
 ・雲一つない青空
 ・市農業祭
 ・大神まつり
 ・歴史千八百年前

社 B
 ・気温日傘 天気の情報
 ・多くの参拝者
 ・竹矢来
 ・牛が田をすいた
 ・神秘的な歌声
 ・九月に御田刈祭

社 A
 ・アマチュアカメラマン
 ・青空の下
 ・生徒が歌った
 ・一時途絶えた
 ・千数百年前
 ・毎年練習を重ねた勝山中の生徒が参加した

それぞれ新聞はどんな意図をもって編集されているかを説明しよう。

メディアと上手に付き合うために
 めあて

本時の流れ

① 前時の学習内容と、本時のめあてを確認する。

発問1
 二社三社の記事内容を比較し、点はどこか。三段落目で異なる

② プリントに取り上げた記事を、三社の記事内容を比較し、異なる点についてまとめる。

◆ グループでまとめた意見を発表にさせる。時に、発表順を変えさせる。により、多くの生徒に発表させる。

◆ 意見をまとめるときに、比較しやすいように箇条書きにする。

③ それぞれの新聞社がどこに注目して取材したのか、話し合い、発表する。

発問2
 三社はそれぞれどこに注目して取材したのか。

◆ 教科書⑩段落を黒板に提示し、活動内容を明確にする。

◆ ホワイトボードに話し合った内容を十字以内でまとめ、発表する。

④ 本時の学習の振り返りをする。

◆ 自分の考えを自分のことばで表現し、発表する。

6 評価

- ・新聞の編集の意図を実際の新聞記事を通して理解することができたか。
(C 読むこと ウ エ)
- ・いろいろな意見を聞いたり、グループで話し合ったりすることで自分の考えを深めることができたか。(A 話すこと・聞くこと オ)

① 発問1の発表(全員参加)



② 発問2の話し合い活動



③ ホワイトボードに意見を記入



④ グループごとの発表



⑤ 本時のまとめ(振り返り活動)



⑥ 板書



2 研究協議での意見や提案、授業後の考察

(1) 意見・提案

① ワークショップ型研修会での意見

- ・「今日のめあて」を提示し、授業の流れがめあてに向かっていた。
- ・身近な教材が取り上げられており、生徒の興味・関心が高まっていた。
- ・ワークシートがわかりやすく、板書と同じ配置になっていた。
- ・グループ活動での意見をホワイトボードに記入し発表する形式が定着していた。
- ・全員が発表する場面やグループで意見交換する場面など、学び合いが習慣化していた。

② 課題

- ・三社の記事を比較するのはやや難しく、話し合いが広がりすぎたのではないかな。
- ・発表の約束事や聞く態度について、さらに細やかな指導をしていくとよい。
- ・発問の仕方によって、生徒の答え方がさらに明確になり、深まるのではないかな。
- ・全国学力・学習状況調査のアンケートに「新聞を読んでいるかどうか」を問う項目がある。全く読まない中学生は「全国… 59.4% 山口県… 56.1% 下関市… 60.8%」という結果を踏まえ、家庭では難しくても授業の中で新聞を活用してくことで、考える生徒を育てていくことができるのではないかな。

(2) 学校としての取組

本校における全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、毎年同じような傾向が見られる。その傾向は、全国における国語の課題とも共通している点が多い。このことから次の5点について取り上げ、国語科の教員と連携を図り、昨年度から実践してきた。

- ①条件に従って、説明したり、自分の意見をまとめたりする活動
- ②いろいろな資料から読み取った内容を話し合ったり、まとめたりする活動
- ③テーマに沿った発表の仕方や文章のまとめ方を学習する活動
- ④文章の表現や言葉から根拠を説明する活動
- ⑤学習のまとめで行う条件作文を読み合い、評価する活動

(3) 今後の課題

- ①3年間を見通した学習活動の在り方……**継続性**
- ②単元または教材においてどんな力を付けさせたいのか ……**焦点化**
- ③教材研究・開発・アイデア…… **教師同士の学び合い**

成果が出るまでには時間がかかる。その成果がでるまでやり続ける「継続性」と、単元で付けさせたい力の「焦点化」は、教師の日々の教材研究・開発・アイデアを追究する姿勢によるものだと考える。また、今回、「授業づくり拠点校」として研修する機会を得たことにより、自分自身の授業について振り返ることができたと思う。今後はさらに教師同士の学び合いを深め、研鑽を積んでいきたい。